棚尾地区まちづくり事業
平成 24 年 11 月 21 日（水）19 時～
棚尾公民館 3 階

第１７回　棚尾の歴史を語る会　次第

進行（小笠原幸雄）

1　前回までのテーマに関する参考意見など
　地蔵尊、敬老会、大相撲清見潟、土人形など

2　テーマ 32　「貝殻合わせ」
⑴　説明（磯貝国雄）

⑵　出席者による補足説明、感想など

3　テーマ 33　「棚尾地区内の区画整理」
⑴　説明（磯貝国雄）

⑵　出席者による補足説明、感想など

4　連絡事項・情報交換など
「平岩種治郎」展　平成 25 年 1 月 27 日まで　美術館地下 1 階

5　次回日程
第 18 回　12 月 19 日（水）　午後 7 時から
「棚尾のお医者さん」「民話：小谷がつぼ」
第 19 回　 1 月 23 日（水）　午後 7 時から
「平岩種治郎」「昔の棚尾小学校校舎」

棚尾の歴史を語る会　テーマ 32

「貝殻合わせ」

1　要旨

棚尾の土地を掘ると貝殻の出ることがよくある。これは早くから人が住み、長い年月の間に貝を生活の糧として多量に獲り、食べた後に捨てたからである。道に撒けば雨降りでも、ぬかるまず堅固になった。

また、子どもたちは小遣い稼ぎに、貝殻合わせの仕事をした。貝屋さんから蛤の殻をもらってきて、その中から同じ貝を探し出し、二枚一組を糊で合わせる仕事である。その合わさった貝殻は軟膏薬の入れ物等容器として広く使われた。

2　碧南風土記抄　43　「はまぐり市」　著者：牧野禅光

碧南文化財第 9 集　平成 7 年 3 月発行　碧南市教育委員会

「昔はよく貝を獲ったものだ」というのがその老人の話の始まりである。今の人には忘れられ思い浮かばぬ風景であるが、棚尾村の郷中の道はどこもアサリとかシジミの貝殻がまるで現今の砂利道のように厚く踏みしだかれていた。これは明治 16 年（1883）生まれの中山の老人の思い出である。彼は当時毘沙門さんにあった学校へ小学生で通ったが、東浦の郷中を通り平七、堀切、汐田を通って行ったものだ。棚尾の道はどこも狭かったが、それにしてもその貝殻の量は印象に深く残るものであった。

永い年月、貝を生活の糧として多量に獲り、始めは貝殻を捨てる場所として庭や道が都合がよい、また迷惑にもならぬ場所であったのだろう。まして道が堅固になり、雨降りにはぬかるまず、またまた微塵になった貝殻を鶏の餌に混ぜたりと、利点も中々あったが、都合の悪いこともあった。それは、貝殻道はいくら足音を忍ばせてもミシミシと微かな特有の音がたち、当時の若者達の夜更けのひやかし帰りに気まずいものであった。

棚尾駅近く藪下の亀ガ下には貝殻だけを扱うはまぐり市があった。貝にはハマグリ、シジミ、アサリ、チンメ、アカガイ、バカガイ、マテガイ、サンカクマテ、オノガイ、トリガイ、ウンネ（丸くつるつる）、カラスオ、ミルクガイ、ソックリガイ、ホタテカキ、オタホガキ、タワラガイ、オカマガイ（黒い）ニシ等様々であったが、市場性のあるのは何といってもハマグリ、アサリ、シジミであった。漁場も暗黙の妥協があり、

蜆川の東側は前浜の人、中は棚尾の人、西は大浜と獲り場が決まっていたという。小潮の時は採集量が少ないので、そんな時に出荷出来るように川の中に竹杭で仕切った生簀があった。ハマグリは一丈下へもぐるといわれ竹杭は深く打ち込まれていた。

一方、貝に関連する佃煮屋や魚屋は、別にハマグリの貝殻を大量に集めて貝合わせをし、薬（軟膏）や口紅等の容器として出荷した。紺屋（染物屋）のように漆喰床に一面に蛸壷のような容器が埋めてあり、石灰を溶かした液にハマグリの貝殻を浸しておく。付近の子供や年寄りが提げ袋位の布袋を持って行き、柄杓で貝を取り出し、米をとぐように汚れやぬるめをとり、きれいに洗って干し、家に持ち帰り、一面に拡げて貝合わせをする。貝が合うと離れないよう糊ではりつけ、店に持って行き、数に応じて手間賃を貰った。

貝は、子供たちにとって遊びの小物でもあった。ハマグリを空気の漏れないように密着させ、蝶番に当るところをゴシゴシとこすって穴をあけ貝笛を作って音を楽しんだ。女の子は貝を美しい布に包んで縫い、それを緒止めのようにして腰に下げてアクセサリーとしておしゃれを楽しんだ。今よりずっと生活は自然と身近なものであった。

なお、話は違うが、棚尾の郷中を歩くと、どの家にもイチジクの木が植わっていた。生活用水は一度「ほうれがめ」に溜まり、溢れた水が溝を流れていた。イチジクは湿気に強い果樹なので、年中肥料分のある下水でじくじくした庭隅に適したのであろう。

3　碧南の貝塚

⑴　資料「碧南事典」抜粋

碧南の遺跡

弥生時代になって稲作が伝わってくると、水田耕作のために丘陵地から低地に移り住み、碧南の台地周辺にも村が作られてきたらしく、玉津浦、八柱神社境内、出口などで弥生時代の貝塚遺跡が発見されている。

⑵　資料「碧南市史第１巻」

集落の発達　「貝塚から見た村の発達」　碧南の貝塚と主な遺跡

第 22 表　碧南の貝塚と主な遺跡

	貝塚名称	所在地	組成貝類
1	玉津浦貝塚	宮町	ハイガイ、アサリ、カキ
2	谷畑貝塚	西浜町	アサリ、オキシジミ、カキ
3	出口貝塚	西浜町	アサリ、オキシジミ、カキ

4	坊領貝塚	坂口町	ハイガイ、オキシジミ、カキ、カガミガイ
5	上人貝塚	大浜上町	アサリ、オキシジミ、ツメタガイ、カガミガイ
6	乙立貝塚	浅間町	カキ、ハマグリ、ツメタガイ、カガミガイ
7	那知貝塚	大浜上町	アサリ、カキ、ハマグリ
8	荒井貝塚	鷲林町	アサリ、オキシジミ、カキ
9	神有貝塚	神有町	アサリ、ウミニナ、ハマグリ、カキ、マテガイ
10	八柱神社貝塚	弥生町	未発掘
11	築山貝塚	築山町	ハイガイ、カキ、一部未発掘
12	中松貝塚	中松町	アサリ、オキシジミ、アカニシ、カキ
13	才勝貝塚	浜田町	発掘済
14	村神貝塚	善明町	発掘済　（釜跡といわれている）
15	吹上貝塚	吹上町	未発掘

4　棚尾の貝業

⑴　資料「棚尾村史」

漁獲高　貝類

年度	はまぐり	あさり	しじみ	とり貝	おごのり	あおのり
明治 13 年	120 石					
38 年	400					
39 年	401					
40 年	341					
41 年	263	266 石				
44 年	104		3 石			
大正元年	95	42	2			
3 年	200	10				
4 年	400	300	10			
5 年	300	200	10			
6 年	250	180	10			
7 年	230	150	10			
8 年	250	200	10			
9 年	150					

年度	はまぐり	あさり	しじみ	とり貝	おごのり	あおのり
10 年	992 貫	2,280 貫				
昭和 7 年	18,000 貫	900 貫		1,000 貫	200 貫	50 貫

⑵　棚尾の貝屋

昭和 10 年棚尾町商工会会員名簿から抜粋

時雨、蛤　　杉浦　佐一郎　（缶詰の記録も有り）

時雨、蛤、魚　　井上　さか

時雨、蛤　　古久根近作

時雨、蛤　　長崎　鶴吉

5　貝殻の用途

⑴　薬容れ

棚尾の医者、賢木原（さかきばら）家では「きんか」という塗り薬の容器に使われた。

⑵　貝笛

子どもの遊び道具として、全国的に使われた。

新美南吉の詩に「かなしいときは貝殻鳴らそ　二つ合わせて息吹（いぶき）をこめて　静かに鳴らそ貝殻を」があり、半田市仮宿公園に文学碑がある。

「棚尾地区内の区画整理事業」

1　要旨

道路が狭かったり、排水が悪く不便な土地が多い場合など範囲を決めて、区域全体の土地を利用しやすいように、道路や公園を建設し造成しなおす方法として、土地区画整理事業がある。棚尾地区内では、これまでに 4 地区で実施され、沢渡町、源氏神明町、志貴崎町、川端町、雨池町の全部と作塚町、若宮町の一部がこの事業で整備されました。

2　碧南市内の土地区画整理事業

10 地区が完了し、現在は 2 地区が施行中である。

⑴　施行済

番号	名　称	施行年度	区域の主な町名
1	松本	Ｓ37～Ｓ47	松本町、野田町、源氏神明町、沢渡町
2	松本第二	Ｓ43～Ｓ61	宮後町、天王町、末広町、栄町、向陽町
3	伏見屋	Ｓ47～Ｓ52	伏見町、日進町
4	平七	Ｓ53～Ｓ58	志貴崎町、川端町、若宮町
5	平七第二	Ｓ56～Ｓ58	志貴崎町
6	下山	Ｓ57～Ｈ 3	入船町、岬町
7	雨池	Ｓ62～Ｈ 6	雨池町
8	東部	Ｈ 5～Ｈ19	照光町、池下町、三宅町
9	札木	Ｈ 5～Ｈ19	札木町
10	権田	Ｈ 7～Ｈ18	権田町

⑵　施行中

1	下山第二	Ｈ 4～	宮町、権現町、若松町
2	伊勢	Ｈ23～	伊勢町

位　置　図　松本地区

位置図
松本地区
法城寺
光専寺
公園
碧南警察署
碧南市役所
図書館
文化会館
中山神明社
公園
碧南商工会議所
公園
不動尊社
南中学校
東正寺
日進小学校
高浜環状線
市営向山住宅
県道

3　松本土地区画整理事業

⑴　事業概要

本地区は、市の中央部に位置し、市役所、警察署、消防署、図書館等の官公署が集中していた。施行前は、大部分が農地であって、2 本の都市計画道路以外は狭い道路しかなく、今後碧南市の中心市街地の核となるべき道路、公園等の公共施設の整備改善が急務とされていた。

ア　施行面積　48.7ha

イ　施行期間　昭和 37 年度～昭和 47 年度

ウ　施行者　　碧南市

エ　権利者数　562 名

オ　事業費　　330 百万円

カ　土地区画整理審議会委員

石川　正平　　磯貝長太郎　　生田　幸雄　　神谷　弥吉

加藤由太郎　　古久根与一　　杉浦　栄一　　鈴木新治郎

鈴木与太郎　　油谷又一郎　（故）小笠原良一

⑵　施行後の町名

野田町、松本町、沢渡町、源氏神明町、東浦町、栗山町、作塚町、善明町

⑶　主な公共施設

県道平坂福清水線、都市計画街路源氏坂上線、同吉浜棚尾線、同大道平七線

野田公園、沢渡公園、源氏神明公園

碧南市役所、文化会館、碧南警察署

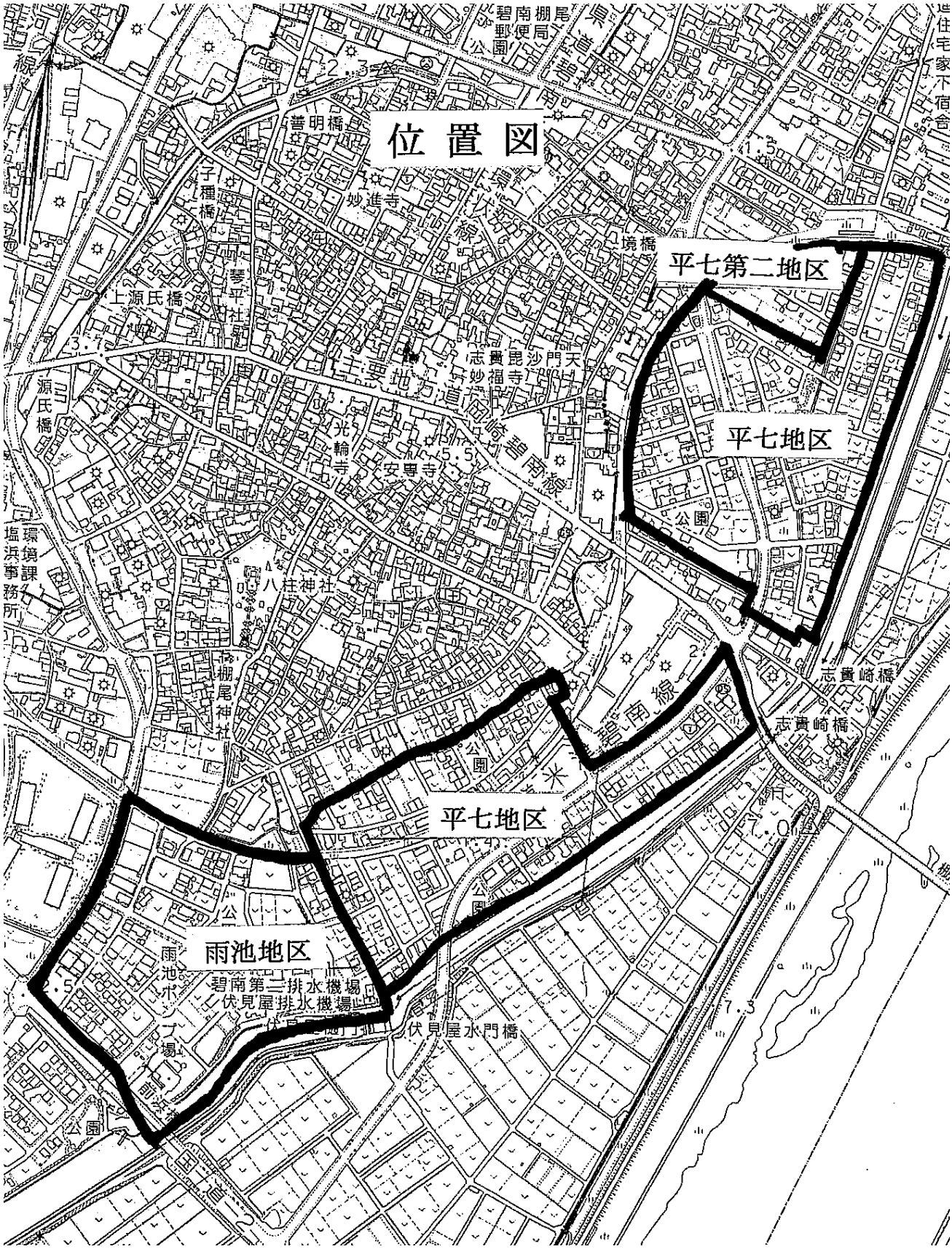
⑷　特徴

碧南市で最初の土地区画整理事業であった。

施行者は碧南市である。

市内で町名変更が最初に行われた。

位置図　平七、平七第二及び雨池地区



4　平七土地区画整理事業

⑴　記念碑

志貴崎町１丁目に建つ記念碑の碑文は次のとおりである。

碧南平七土地区画整理事業の大要

ここ平七新田は「平七村開発以来由緒記」によれば、320 余年の昔、寛文３年（1662）先覚者、稲生平七郎始め 13 名が、時代の西尾城主井伊伊兵部輔の許しを得て、東浦に続く湿地に八百間の築堤を成し開拓され、尓来地域民の献身的な耕作が営まれ人々の生活を潤してきた。

昭和 53 年碧南市制 30 年を迎えるに至り衣浦臨海工業地帯への企業進出により市勢は急速に躍進した。こうした時代に即応し調和のとれた土地の高度利用手法、土地区画整理に着目し、住みよい環境の町づくりと、公共施設整備のため関係地主の賛同を得て、事業に着手した。

以来６年余の歳月を経て、ここに円満且つ立派に完成するに至った。

これら事績を残すため右に事業の概要を記す。

昭和 59 年３月吉日　理事長　鈴木與太郎

事業概要

一　事業名　　碧南平七土地区画整理事業
一　設立　　昭和 54 年１月 17 日
一　権利者数　　171 名
一　事業年度　　自昭和 53 年度　至昭和 58 年度
一　施行面積　　23.2ha
　　公共用地　　72,090 ㎡
　　民有地　　149,408 ㎡
　　保留地　　10,748 ㎡
　　減歩率　　28.32%
一　事業費　　117,400 万円
一　換地処分　　昭和 59 年２月６日
一　事業施行者　碧南平七土地区画整理組合
一　事業協力者　碧南市
一　工事施行　　碧南建設業組合
一　換地業務　　玉野総合コンサルタント

役員総代

理事長	鈴木與太郎			
副理事長	石川　専一	井上　種吉		
理事長	長田　謙夫	小笠原妙次郎	小澤　重利	杉浦　廣士
	鈴木　豊治	多田　保一	永坂　房夫	三島　　勇
	三島　　勝	三島　芝生		
監事	斎藤　清市	芝田　廣海	高山　八郎	
評価委員	長田　治夫	鈴木　久夫		
総代	生田　　博	井上　栄一	小笠原　仁	小沢　卓夫
	古久根正義	斎藤　昇平	榊原　幸雄	杉浦　定一
	杉浦　貞雄	杉浦　高盛	杉浦　次男	杉浦　　広
	鈴木　　功	高橋　朝雄	永坂　友明	永井　久吉
	松山　俊平	森田　　実	(故)井上藤龍	(故)杉浦信男

⑵　町名

ア　施行前

大字平七字田ノ崎、字亀ヶ下、字堀切下、字郷下、若宮町３丁目、若宮町６丁目の一部

イ　施行後

志貴崎町、川端町、若宮町７丁目

⑶　主な公共施設

県道米津碧南線

若宮公園、川端公園、志貴崎公園、志貴崎西公園

５　平七第二土地区画整理事業

⑴　記念碑

志貴崎町１丁目平七緑地に建つ記念碑の碑文は次のとおりである。

事業概要

一　事業名　碧南平七第二土地区画整理事業

一　設立　　昭和57年３月15日

一　権利者数　15名

一　事業年度　自昭和56年度　至昭和59年度

一　施行面積　　13,643 ㎡

公共用地　　3,454 ㎡

民有地　　8,935 ㎡

保留地　　1,254 ㎡

減歩率　　33.35%

一　事業費　　8,840 万円

一　換地処分　　昭和 59 年 2 月 6 日

一　事業施行者　碧南平七第二土地区画整理組合

一　事業協力者　碧南市

一　工事施行　　碧南建設業組合

一　換地業務　　玉野総合コンサルタント

関係者

理事長　　鈴木與太郎

副理事長　高山仁六

理事　　小笠原嘉彌　　金原　常一　　古久根正義　　高山　八郎

監事　　石川　　茂　　岩間　米雄　　榊原　邦康

権利者　　岩間平太郎　　小笠原瀧男　　小笠原基司　　斎藤　太志

杉浦　なみ　　杉浦重一郎　　鈴木　昭一

技術指導　碧南市都市開発部区画整理課

⑵　町名

ア　施行前

大字平七字郷下

イ　施行後

志貴崎町

⑶　主な公共施設

平七緑地

6　雨池土地区画整理事業

⑴　記念碑

雨池町 1 丁目雨池公園に設置されている記念碑の碑文は次のとおりである。

碧南雨池土地区画整理事業　完工記念

事業概要

設立　　昭和62年10月2日

権利者　　74名

事業年度　　自　昭和62年度　至　平成 6年度

施行面積　　98,844.4㎡

公共用地　　34,989.9㎡

宅地　　60,043.67㎡

保留地　　3,810.83㎡

減歩率　　25.17%

事業費　　8億6千5百万円

施行者　　碧南雨池土地区画整理組合

技術援助　　碧南市都市開発部区画整理課

記念像制作　わらべの詩　加藤　知彦

役員

理事長　　榊原　光秋

副理事長　斎藤　正雄

理事　　石川　秀雄　　杉浦　利治　　金原　實　　杉浦　増雄

磯貝　　實　（故）三島芝生

代表監事　永坂　友明

監事　　三島　勇　　井上　葵

評価員　　長田　治夫

平成8年3月吉日之建

⑵　町名

ア　施行前

字浜田の全部と字雨池、字六兵衛、権田町1丁目、塩浜町3丁目、字一浜、大字平七字田ノ崎の一部

イ　施行後

雨池町

⑶　主な公共施設

都市計画街路碧南高浜線、

雨池公園（3,600㎡）

雨池ポンプ場（5,550 ㎡）

伏見屋排水機場（1,505 ㎡）

雨池防災倉庫

雨池公園の記念像　「わらべの詩」　加藤　知彦